



Micro Focus Server Express 5.0J

日立 BladeSymphony ブレードサーバ BS1000(Xeon)

Red Hat Enterprise Linux 4 動作検証結果報告書

平成 19 年 10 月 9 日

マイクロフォーカス株式会社

1. 検証概要、目的及びテスト方法

1.1 検証概要

既に Intel x86-64 プロセッサの Red Hat Enterprise Linux 4 で動作検証されている Micro Focus Server Express 5.0J を、最新のクアッドコア CPU を搭載した日立 BladeSymphony ブレードサーバ BS1000(Xeon) シリーズ上の Red Hat Enterprise Linux 4 上で動作検証しました。

1.2 目的及びテスト方法

Micro Focus Server Express 5.0J は、現在 Intel x86-64 プロセッサの Red Hat Enterprise Linux (以下 RHEL) 4 では動作検証済みです。

BladeSymphony ブレードサーバ BS1000(Xeon) シリーズが搭載するクアッドコア Xeon プロセッサ X-5355 は CPU として従来の Intel x64 からの互換性を持っています。従って Server Express 5.0J もこの環境で動作します。今回の COBOL 言語の機能を網羅的に実行するテストスイートを実行することによって、これを検証しました。

テストスイートは、ANSI85 COBOL 構文を網羅的にテストするものを使用しました。これによって、COBOL コンパイラで使用するすべての CPU 命令、Linux システムコールを網羅できるので、万が一クアッドコア CPU の独自のアーキテクチャの非互換性があった場合に検出できるものです。

2. 使用ハードウェア及びソフトウェア一覧

日立 BladeSymphony ブレードサーバ BS1000(Xeon)

クアッドコア Xeon プロセッサ X-5355 2基搭載 16GB memory

Red Hat Enterprise Linux 4

OS release 2.6.9-34.ELsmp

gcc version 3.4.5 20051201 (Red Hat 3.4.5-2)

Micro Focus Server Express 5.0J

3. テスト内容

ANSI85 規格 COBOL の言語機能の網羅テスト

以下の試験項目を、int コードと実行形式の両方で実行し検証しました：

中核 94 本、順編成ファイル 85 本、相対編成ファイル 35 本、索引編成ファイル 42 本、ソートマージ 40 本、プログラム間通信 47 本、組み込み関数 42 本

4. 結果

4.1 インストール

Server Express 5.0J の製品 CD-ROM から標準の方法でインストールすることができました。

4.2 デフォルト構成の変更

上記の方法でインストールした結果、`int` コードと `gnt` コード及び実行形式の実行については、問題なく行うことができました。

4.3 テストプログラム実行結果

上記テスト内容の全てを実行し、問題は検出されませんでした。

5. テスト結果及び考察

Red Hat Enterprise Linux 4 を実行する BladeSymphony ブレードサーバ BS1000(Xeon)ホスト OS 環境上で、既存の Micro Focus Server Express 5.0J を問題なく使用できることが検証できました。これをもちまして弊社の正式な動作保証と致します。

以上